

2025年2月3日
株式会社講談社

「2025年本屋大賞」に講談社刊行の 『カフネ』、『小説』、『死んだ山田と教室』、 3作品ノミネートのお知らせ

平素より弊社の出版活動にご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。

「2025年本屋大賞」ノミネート10作品が、本屋大賞HP (<https://www.hontai.or.jp/>)にて2月3日、発表となりました。講談社からは阿部暁子さん『カフネ』、野崎まどさん『小説』、金子玲介さん『死んだ山田と教室』の3作が選出。

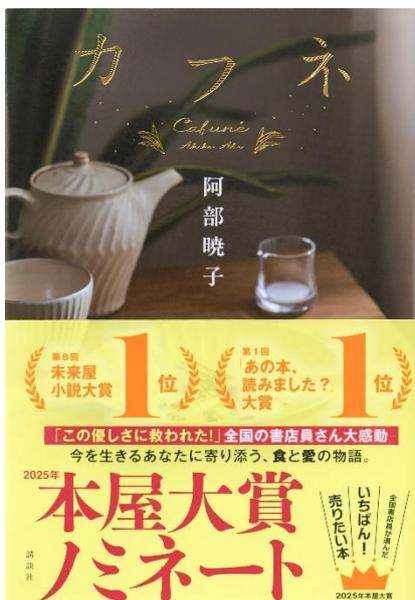
講談社作品が3作同時にノミネートされるのは、2年ぶり3回目のことです。

3名とも、著作が本屋大賞にノミネートされるのは初めて。講談社がお届けする新たな才能の輝きにご注目下さい。

「2025年本屋大賞」は全国の書店員の2次投票により決定し、4月9日(水)に発表予定です。

以下より、3作品のあらすじと著者略歴をご紹介します。

◆『カフネ』阿部暁子 著



【あらすじ】

一緒に生きよう。あなたがいると、きっとおいしい。やさしくも、せつない。この物語は、心にそっと寄り添ってくれる。

法務局に勤める野宮薫子は、溺愛していた弟が急死して悲嘆にくれていた。弟が遺した遺言書から弟の元恋人・小野寺せつなに会い、やがて彼女が勤める家事代行サービス会社「カフネ」の活動を手伝うことに。弟を亡くした薫子と弟の元恋人せつな。食べることを通じて、二人の距離は次第に縮まっていく。

<https://bookclub.kodansha.co.jp/product?item=0000386916>



KODANSHA

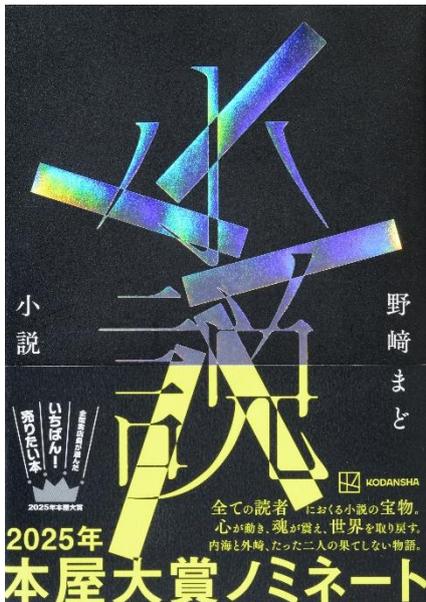
「おもしろくて、ためになる」を世界へ
Inspire Impossible Stories

【著者略歴】

岩手県出身、在住。2008年『屋上ボーイズ』（応募時タイトルは「いつまでも」）で第17回ロマン大賞を受賞しデビュー。著書に『どこよりも遠い場所にいる君へ』『また君と出会う未来のために』『パラ・スター 〈Side 百花〉』『パラ・スター 〈Side 宝良〉』『金環日蝕』『カラフル』などがある。



◆『小説』 野崎まど 著



【あらすじ】

五歳で読んだ『走れメロス』をきっかけに、内海集司の人生は小説にささげられることになった。一二歳になると、内海集司は小説の魅力を共有できる生涯の友・外崎真と出会い、二人は小説家が住んでいるというモジャ屋敷に潜り込む。そこでは好きなだけ本を読んでも怒られることはなく、小説家・髭先生は二人の小説世界をさらに豊かにしていく。しかし、その屋敷にはある秘密があった。

<https://bookclub.kodansha.co.jp/product?item=0000399208>

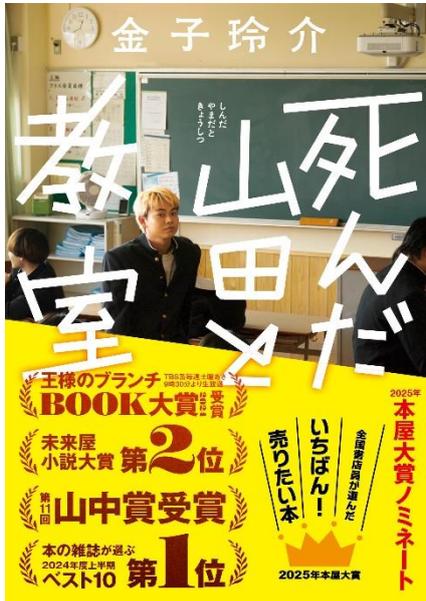
【著者略歴】

2009年『[映] アムリタ』で、「メディアワークス文庫賞」の最初の受賞者となりデビュー。2013年に刊行された『know』（早川書房）は第34回日本SF大賞や、大学読書人大賞にノミネートされた。2017年アニメ『正解するカド』でシリーズ構成と脚本を、また2019年公開の劇場アニメ『HELLO WORLD』でも脚本を務める。講談社タイガより刊行されている「バビロン」シリーズは、2019年よりアニメが放送された。他の著書に『タイタン』など。





◆『死んだ山田と教室』 金子玲介 著



【あらすじ】

夏休みが終わる直前、山田が死んだ。飲酒運転の車に轢かれたらしい。山田は勉強が出来て、面白くて、誰にでも優しい、二年 E 組の人気者だった。

二学期初日の教室。悲しみに沈むクラスを元気づけようと担任の花浦が席替えを提案したタイミングで教室のスピーカーから山田の声が聞こえてきた——。教室は騒然となった。

山田の魂はどうやらスピーカーに憑依してしまったらしい。〈俺、二年 E 組が大好きなんで〉。声だけになった山田と、二 E の仲間たちの不思議な日々が始まった——。

<https://bookclub.kodansha.co.jp/product?item=0000386422>

【著者略歴】

1993 年神奈川県生まれ。慶応義塾大学卒業。『死んだ山田と教室』で第 65 回メフィスト賞受賞。2024 年のデビュー以降、立て続けに『死んだ石井の大群』、『死んだ木村を上演』を刊行。

